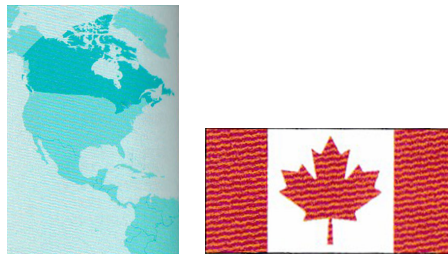


## 3426 カナディアン・ロッキー：状況と心模様①

今週の世界の旅・地球のかおりは、From Canada with Love。

夢見る夢少年が大人になって大きな夢を実現。

八十八日間カナダ大陸横断、時は5月。スタートはバンクーバー。



この旅立ちには、心に秘めていた、ある夢があった。

その一つが、ある期間、ロッキー山脈の懐<sup>ふところ</sup>に身を置く事。そして、心の命ずるままに、  
思いっきり、この地をさまよう夢の実現だった。

長期のひとり旅である。有形無形、荷物は最小限、身一つを頼りに。

とは言え、八十八日間の旅である。荷物も多くなる。最小限の情報も必要だろう。

いつものように、バンクーバーの地元の食材を見て歩き、

気に入ったものを、まず食す。

実に食材は豊富、この旅は楽しくなりそうである。

しかし、ロッキーの山の中はどうだろう。そして、現地で地図を購入し、  
概略の地勢を頭に入れた。現地のお天気、最新情報、もちろん危険情報も入手して。

今はインターネット、スマホの検索だろうが、

少し前までは、行く所に行けば、資料は、結構手に入った。

これは万一の場合のお守り。予備知識や先入観、固定概念を出来るだけ排除。

観光案内を巡る旅ではない。しかし、闇雲に旅する訳にも行かない。

挑戦するロッキーは、危険地帯の側面がある。  
油断できない自然もあれば、動物もいる。登山家や冒険者が行くところの情報も入手。  
準備万端に、特に心構え。客観的な判断も必要。何しろ、ひとり行脚。  
天候や地形、光の傾向など念には念を入れて現地情報を把握。

沿岸地方と中央大平原を分ける南北にのびる巨大山脈。  
カナダ側にあるバンフやジャスパー国立公園、ヨーホーやクートニー、グレイシャー国立公園  
アメリカンロッキーに入り、イエローストーンまで足をのぼし、  
道草をしながら、カナダに戻る計画も含まれる。

出発進行！ バンクーバーからハウ海峡を左に見て、憧れのロッキー山脈をめざした。  
しばらくは、海ともおさらば。海岸線にある街や公園に立ち寄り道草。  
海岸で貝殻や潮のかおりを楽しみ、家族連れの親子を見ながら、この地の生活を想像しながら

元気で生き生き遊んでいる子供達を見ると、私まで元気になれる。  
そのエネルギー、ふと、子供の頃を思い出した。しばし思いにふける時間、道草ばかり。  
我を忘れるひと時。なかなか前に進まない。しかし、得るものがある。  
出来るだけ、子供心で旅をしよう。自由に。

ここでまた、フットワークのいい、人懐っこい<sup>くらく</sup>久業が登場する。  
カナダ西部はフランス語圏だが、カナダ東部は英語圏。いろいろな人との出会いを積極的に。  
現地の人や出会いから得る情報が面白く、ためになることが多い。

確かか、確かでないかは、自分で判断すればいい。  
いささか、ミステリーにみちている時もあるが、面白く、旅の楽しみの一つである。  
中国はじめ東洋系の人間を見慣れているような雰囲気である。

学生時代に学んだ片言英語が役立った。  
ヒヤリング能力は今一つだが、相手の熱意や話振りで判断、わからない時は筆談。  
これが何とも楽しい。旅に出ると人が変わる？ 一期一会だが旅の楽しみ。

子供の時の、これ何？ なぜ？ どうして、答えられないと  
怒り出す大人もいたのを思い出した。今は大の大人、知恵も創意工夫もある。  
相手の状況を考えて質問すると、意外と親切である。

子供には、上から物を言わない。視線を同じにして、おしえてもらうことにしている。  
一人ぼっちの子供との話は避ける。梨花の下に冠を正さず、という言葉もあり、  
そんな気配りをしなければならない大人になっている。  
親が同伴している時は、その限りではない。

親切におしえてもらったお礼の意味もある。持参したお土産、  
例えば、折り紙など、眼前で実演。糸とりも、パフォーマンスとしては人気がある。  
どこまで仲良くなれるか、子供の年齢や性格にもよる。

大人に尋ねてみることが多い。それによって、その国の治安の状況も推測できる。  
何しろ、ひとり旅。冒険だが、安全も確保したいという思いがある。  
ロッキー山脈に行ったことがありますか。  
怖い山？ お父さんと一緒？ 質問の仕方が久楽流である。

何色が好きですか、と質問すると、少しタイミングがずれることが多い。  
赤が好きですか、青が好きですか、と質問すると返事が早い。  
この話、どうでも良い、無駄話かも。しかし、久楽の一人旅には、この時間が貴重。  
土地の感触や生の情報を得るための考動。

何しろ、あとは、待ったなし、言い訳なし、後悔なし。  
日本人の多くが行くバンフやジャスパーを避け、郊外での宿探し。大変なこともある。  
名もなき、心楽しい拠点を探す面白さ。まさに旅らしい旅。「遊を楽しむ」

夜明け前に出発するのが日課。車中泊もある。  
陽がまた登る、この早朝の時間の魅力。もはや、引き返せない。